

所属 内モンゴル大学

役職 教授

氏名 玉 栄

研究結果

研究テーマ： モンゴル語母語話者および中国語母語話者による日本語音声処理の比較

母語を習得済みの多くの成人にとって、外国語の学習が容易ではないことは周知の事実である。一般に母語の影響は、とりわけ音声（発音）学習の面で顕著であるとされている。本研究では日本語の習得において困難とされる子音の長短の対立、「以下」「一課」のような促音・非促音の識別に関して、モンゴル語および中国語を母語とする学生を対象に長短対立を含む日本語音声刺激音として知覚実験（A X B 弁別法）を実施した。日本語学習経験の違いが日本語の音声知覚に影響を与えるかどうかを確認するため、内蒙古大学で日本語学習経験の異なるモンゴル語および中国語を母語とする学生60人を対象に知覚実験を行った。実験参加者は日本語を1年未満および約2年学習経験があるモンゴル語および中国語を母語とする男女それぞれ6人（合計12人）、4年以上学習経験がある中国語母語話者男女それぞれ6人（合計12人）である。音声習得におけるバイリンガリズムの効果を検証するために中国語の知識のないモンゴル国の大学生男女それぞれ6人（合計12人）を対象に実験を行った。さらに、上級日本語学習者の知覚能力を検証するため、東京近郊に留学中のモンゴル語および中国語を母語とする学生（日本語能力試験N1取得者）男女それぞれ5人（合計20人）を対象に実験を行った。一連の知覚実験から得られた結果をまとめると：

- (1) 日本語の子音の長短の習得には、日本語学習経験よりむしろ母語の音韻体系といった既存の言語知識が強く影響していると考えられる。モンゴル語母語話者は中国語母語話者より弁別正答率が高い。
- (2) バイリンガルか否かは、日本語の子音の長短の習得にあまり影響を受けない。
- (3) 音声習得には、学習者の母語の音節構造が関連すると考えられる。モンゴル語では子音の長短は対立しないが、音節構造に閉音節<子音+母音+子音>が多いため、語内に二つの子音連続が普通である。そのため、子音の長短がよく聞き取れている。

上述の研究成果に加え、2023年8月に参加した国際学会（プラハ）以降、助成を受けた研究を発展する形で新たに在仏の研究者と国際共同研究を開始した。本研究の関連研究との最大の相違点は、刺激音として新たにモロッコで話されるアマジグ語の変種タシュリヒート語を用いることである。タシュリヒート語は日本語同様、促音・非促音の対立を有するが、語中のどの位置でも対立が生起するという点で日本語とは大きく異なる（日本語は語中のみ）。内蒙古大学に在籍するモンゴル語および中国語を母語とする学生を対象に弁別知覚実験を行って得られた結果を今年10月に開催される国際学会（The 5th International Symposium on Applied Phonetics, Tartu, Estonia）で発表する予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. Cross-linguistic Perception of the Japanese Singleton/Geminate Contrast: Korean, Mandarin and Mongolian Compared. · Kimiko Tsukada, Yurong, Joo-Yeon Kim, Jeong-Im Han, John Hajek. Interspeech 2021, · 3910-3914, 2021年8月30日—9月3日 チェコ共和国ブルノ
2. Non-native Perception of the Japanese Singleton/Geminate Contrast: Comparison of Mandarin and Mongolian Speakers Differing in Japanese Experience. Kimiko Tsukada, Yurong. Interspeech2022, 3068-3072, 2022年9月18日—22日 韓国仁川
3. Bilingual Advantage? Perception of the Japanese Consonant Length Contrast by Monolingual vs Bilingual Speakers of Mongolian. · Kimiko Tsukada, Yurong, Badmaavanchin Munguntsetseg. 13th International Symposium on Chinese Spoken Language Processing: 200-204, 2022年12月11—14日 シンガポール
4. Adaptation to L3 phonology? Perception of the Japanese consonant length contrast by learners of Italian. Kimiko Tsukada, John Hajek The 18th Australasian International Conference on Speech Science and Technology (SST2022), 171-175, 2022年12月13—16日オーストラリアキャンベラ
5. Cross-language perception of the Japanese singleton/geminate contrast by advanced learners from Mandarin- and Mongolian-speaking backgrounds. Kimiko Tsukada, Yurong. The 14th International Symposium on Bilingualism (ISB14), 2023年6月26—30日オーストラリアシドニー
6. Perception of Japanese Consonant Length by Advanced Learners from Mandarin and Mongolian Speaking Backgrounds. Kimiko Tsukada, Yurong· 20th International Congress of Phonetic Sciences 2023, · 2393-2397, 2023年8月8—11日 チェコ共和国ブラハ
7. Perception of Tashlhiyt singleton-geminate contrasts by speakers from Korean, Mandarin, and Mongolian backgrounds. Kimiko Tsukada, Jeong-Im Han, Yurong, Pierre Hallé & Rachid Ridouane The 5th International Symposium on Applied Phonetics, 2024年9月30日—10月2日エストニア共和国タルトゥ

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

上記1, 2, 3, 4, 6は学会論文として掲載済み。今後引き続き学会論文を修正加筆し、学術誌に投稿することを目指す。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)